

目次

こども福祉科保育士・幼稚園教諭コース2年

A 厚生労働省指定科目 *印の科目は、豊岡短期大学通信教育部シラバス参照のこと

教養科目

経済学	山梨 顕友	3
-----	-------	---

専門的科目

こども家庭支援論	長谷 あゆみ	4
*こどもの理解と相談支援	高橋 裕	
こどもの保健	奥野 啓子	5
こどもの食と栄養	坂岡 寿恵	6
*こどもの指導法「健康」	浦田 日出雄	
*こどもの指導法「環境」	武田 克江	
*こどもの指導法「音楽表現Ⅱ」	折笠 美穂	
	田中 智子	
	道上 里奈	
*こどもの指導法「言語表現」	横田 由紀子	
乳幼児保育Ⅱ	道上 里奈	7
こどもの健康と安全	谷内 智美	8
障害児保育Ⅱ	千葉 桂子	9
社会的養護Ⅱ	和田 晃尚	10
子育て支援	伊藤 礼美	11
*保育・教職実践演習	井口 美和	
*特別支援教育	渡辺 隼人	
*こどもの指導法「音楽表現Ⅲ」	折笠 美穂	
	田中 智子	
	道上 里奈	
*環境論	早坂 聡子	
こどもとリズム表現Ⅲ	道上 里奈	12
幼児造形	矢元 政行	13
こどもと音楽表現Ⅳ	折笠 美穂	14
	田中 智子	
	道上 里奈	
保育実習Ⅱ	谷内 智美	15
保育実習Ⅲ	藤田 留美	16
保育実習対策Ⅱ・指導Ⅱ（保育所）	谷内 智美	17
保育実習対策Ⅲ・指導Ⅲ（施設）	藤田 留美	18
*教育実習	井口 美和	
	藤田 留美	
教育実習対策Ⅱ	井口 美和	19
	藤田 留美	
こどもと体育	高橋 和也	20
卒業研究	房田 里枝	21
保育制作Ⅱ	道上 里奈	22
障害者支援論	齊 藤 英紀	23

卒業研究Ⅱ	房田 里枝	……………	24
卒業研究Ⅲ	房田 里枝	……………	25

B 本校独自科目

教育実習対策Ⅲ	井口 美和	……………	26
点訳	吉田 重子	……………	27
応対論Ⅱ	坪崎 美佐緒	……………	28
国語総合演習Ⅱ	浦田 日出雄	……………	29
就職ガイダンスⅡ	長屋 敦志	……………	30

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年	講義
科目名	授業回数	授業時間
経済学	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
山梨 顕友		
科目のねらい		
私たちが選択に直面した時に、適切な判断を行うためにはしばしば利子や税金などといった経済学と深いかわりを持つ事柄についての知識が必要になります。この講義の目標は、経済学を学ぶことを通して日常生活で出会う経済現象への理解を深めることにあります。		
到達目標		
経済学が扱う事柄が私たちの暮らしとどのようなかわりを持つのかについて理解を深めます。経済学はお金にまつわるだけでなく、人間や企業、政府の行動、そしてそれらの相互作用をうまく言い表すための道具であることが理解できると良いですね。		
受講の心構え		
適時課題を提出してもらいます。 身の回りの物事が経済とどうかかわっているのかに関心を持ってみましょう。		
成績評価基準		
試験・提出物 80%、授業態度・出席状況：20% 期末に試験を行います。		
授業計画表		
1. 経済学とは 2. マクロ経済学について 利潤と GDP 3. ミクロ経済学について 需要・供給と均衡 4. 自由な市場の長所と短所 5. 公共財と税金 6. 貨幣と利子 7. リスクと保険 8. まとめ		
使用テキスト・参考文献		
中谷武（編）『1からの経済学』碩学舎		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年	講義
科目名	授業回数	授業時間
こども家庭支援論	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
長谷 あゆみ	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する	
科目のねらい		
こどもの安心で安全な日々を保障し、その健やかな成長発達のためには、子育て家庭への支援は欠かせません。「こどもの最善の利益」は何なのかを常に考え、家庭支援の方法を具体的にかつ社会的観点からも学んでいきます。		
到達目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1, 子育て家庭への支援の意義・目的を理解する 2, 個々のこども理解・家庭理解を深める 3, 多様な支援の展開と保育現場での実際の援助を学ぶ 		
受講の心構え		
保育士の専門性を高める大切な内容となっています。現場でのこどものケアと家庭支援に活かせるように、積極的に学ぶ姿勢を期待します。必ず配布資料のファイリングをして下さい。		
成績評価基準		
レポート・筆記試験（60％） 授業での取り組み姿勢や態度（40％）		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"> 1, オリエンテーション・家庭支援の意義 2, 子どもの権利擁護・子ども観ーこども理解と保護者理解 3, 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 ①児童相談所～ 4, 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 ②福祉施設～ 5, 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 ③児童養護施設 6, 保育士の専門性ー保育所保育指針から 7, 保育士に求められる基本的姿勢 8, 子育て家庭のハイリスク要因ー子どもの虐待・DV・貧困など 9, 事例検討ーグループワーク 10, 前半のまとめ 11, 保育士の役割ー子どもへの役割と保護者への役割 12, 要保護児童について 13, 社会的養護の子どもたちとこれからの展望 14, これからの保育士のあり方・セルフケア 15, まとめ 		
「松原康雄 他 『新基本保育シリーズ5 子ども家庭支援論』（中央法規）」 その他、随時授業時に資料を配布。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年	講義
科目名	授業回数	授業時間
こどもの保健	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
奥野 啓子	看護師として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
① 子どもの発育・心身の健康状態を理解する。 ② 子どもに多く見られる代表的な疾患の予防・早期発見・対処方法の基礎知識を学ぶ。		
到達目標		
① 子どもの身体的な発育・発達と保健活動について理解できる。 ② 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。 ③ 子どもの疾病と予防方法および多職種連携について理解できる。		
受講の心構え		
最終試験は配布資料から出題します。資料は授業内に記入してください。積極的な授業参加を希望します。		
成績評価基準		
筆記試験 80% 出席状況・授業態度・課題 20%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. 子どもの心身の健康と保健の意義 ①生命の維持と安定に係る保健活動2. ②健康の概念と保健指導3. ③現代社会における現状と課題 ④地域における保健活動と虐待防止4. 子どもの身体的発育・発達 ①身体発育及び運動機能の発達と保健5. ②生理機能の発達と保健6. 子どもの心身の健康状態と把握 ①健康観察 ②不調時の早期発見7. ③発育・発達の把握と健康診断8. ④保護者との情報共有9. 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (1)主な疾病の特徴 ①先天性の病気10. ②循環器、呼吸器、消化器の病気11. ③アレルギー、免疫、腎泌尿器、内分泌の病気12. ④脳の病気、その他の病気13. ⑤感染症14. (2)子どもの疾病の予防と適切な対応15. まとめ		
使用テキスト・参考文献		
豊岡短大『豊岡短期大学指定テキスト』豊岡短大 初回授業時に資料をまとめて配布します。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもの食と栄養	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
坂岡 寿恵		
科目のねらい		
こどもの健全な発育・発達には、成長段階における適切な栄養摂取と食生活が重要であり、生涯にわたる食生活習慣の基盤をつくる大切な時期でもある。保育者として、こどもの食に直接かかわるための知識と技術を身につける。		
到達目標		
1. 健康的な食生活の意義と栄養に関する基礎知識を習得する。 2. こどもの発育・発達段階に適応した食事支援ができる。 3. こどもの食生活の現状と問題点を把握し、食育の重要性の理解と実践力を身につける。		
受講の心構え		
授業を通して日々の食生活をチェックし、食と栄養に関する情報に関心を持ちましょう。配布資料、プリント等は全てファイリングして毎回持参すること。確認テストあり。授業への積極的な参加を望みます。		
成績評価基準		
筆記試験70% レポート・確認テスト20% 出席状況・授業姿勢10%		
授業計画表		
1. こどもの栄養・食生活の意義、こどもの食生活の現状と課題 2. こどもの身体発育と栄養状態の評価、食べる機能の発達 3. 栄養・食生活の基礎知識① 4. 栄養・食生活の基礎知識② 5. 栄養・食生活の基礎知識③ 6. 妊娠・授乳期の栄養と食生活、乳児期の栄養と食生活 7. 乳児期の栄養と調乳実習 8. 離乳期の意義と離乳食 9. 離乳期の食事の実際 10. 幼児期の栄養と食生活 11. 幼児期の食事と食育 12. 学童期・思春期の栄養と食生活 13. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 14. こどもの食育（演習） 15. 授業のまとめ・考察		
使用テキスト・参考文献		
豊岡短期大学「子どもの食と栄養」久保田絹江 毎回、授業プリントを配布 参考文献は授業内で適宜紹介します。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年	演習
科目名	授業回数	授業時間
乳幼児保育Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
道上 里奈	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
乳児期は、人生の出発点であり、人間が一生のうちで最も成長する時期です。子どもが「人」として生きていくうえで基本となる心情・意欲・態度の基礎を習得し、その力を活用して人格を形成していく大切な時期を保育する大人であることの重要性を理解し、保育者としての人間性と専門性を身につけていきます。		
到達目標		
・乳幼児保育における保育の実際と配慮事項について具体的に理解する。 ・演習を通し、実践に役立つ知識や「考える力」を養う。		
受講の心構え		
1年次の乳幼児保育（講義）からの続きになります。プリントは同じファイルに綴じてください。1年次の復習をしてから授業に臨み、保育士の資格を持つ自覚を持ち、意欲的に参加してください。		
成績評価基準		
授業の取り組みや試験を踏まえ、総合的に評価します。		
授業計画表		
1.オリエンテーション／乳児保育の基本 2.0歳児クラスの実態（生活・環境・援助） 3.1歳児クラスの実態（生活・環境・援助） 4.2歳児クラスの実態（生活・環境・援助） 5.乳児保育における配慮 6.長期的な指導計画と短期的な指導計画、個別の指導計画について 7.計画の振り返りについて／試験 8.まとめ		
使用テキスト・参考文献		
寺田清美・大方美香・塩谷香「乳児保育Ⅰ・Ⅱ新・基本保育シリーズ⑮」中央法規		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもの健康と安全	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
保育の原点は、子どもの命を守り、子どもの健やかな育ちを支えることにあります。子どもの保健に関する知識を学び、保育のなかで実践していくことが保育者には求められます。保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解していきましょう。		
到達目標		
1 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、衛生管理、事故防止及び安全対策、感染症対策について理解する。 2 子どもの発達や状況等に即した適応な対応、子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解する。		
受講の心構え		
配布プリントは全てファイリングしてください。これから出会う子どもたちの命を守り、より良い望ましい未来を作り上げることに繋がる学びになるように授業に参加してください。		
成績評価基準		
授業への取り組み30%、提出物20%、筆記試験50%		
授業計画表		
1 オリエンテーション・保健的観点を踏まえた保育環境および援助 2 保育における健康および安全管理① 3 保育における健康および安全管理② 4 子どもの体調不良などに対する適切な対応 5 感染症対策 6 保育における保健的対応 7 健康および安全の管理の実施体制 8 授業のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
特になし 松田博雄、金森三枝『子どもの健康と安全』中央法規		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年	演習
科目名	授業回数	授業時間
障がい児保育Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
千葉 桂子	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
障がい児保育の歴史を知る。障がい児保育の実際について学ぶ。		
到達目標		
障がい児保育を支える理念や歴史の変遷を知り、理解を深める。 支援者として求められる専門性について理解する。 障がい児保育の実際について、個別の支援計画や指導計画など具体的な支援の仕方を通して学ぶ。		
受講の心構え		
保育の現場に障がいのある子がいることが一般的です。現場での状況を伝え、実技も取り入れながら進めます。配布資料はファイルしてください。(A4) 毎回、ミニレポートを提出してもらいます。		
成績評価基準		
まとめのテスト 60%、小テストとミニレポート 20%、出席及び授業姿勢 20%		
授業計画表		
1.障がい児保育の変遷 2.障がい児の理解と支援 3.発達障がい児の理解と支援 4.療育機関と保育機関の連携と発達の支援 5.障がい児保育の実際①(保育内容と方法) 6.障がい児保育の実際②(指導計画の作成と記録および評価) 7.保育者の家族に対する理解と支援 8. まとめ		
使用テキスト・参考文献		
使用テキスト『新基本保育シリーズ17 障害児保育』中央法規 ・回ごとに資料配布 ・参考文献は、必要に応じて授業時に提示		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉学科 合同	2年	講義
科目名	授業回数	授業時間
社会的養護Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
和田 晃尚		
科目のねらい		
この科目は、児童福祉施設に入所している子どもたちやその家族への支援で求められる子どもの理解の視点や家族支援の在り方等の援助技術について、講義や演習を通して学びます。		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none">・社会的養護にかかわる保育士等の専門職に必要な知識や技術を習得する。・社会的養護にかかわる保育士等の専門職が果たすべき役割を理解する。		
受講の心構え		
1年生時に受講した「社会的養護」の授業内容をよく復習した上で授業に臨んでください。積極的な授業参加を期待します。		
成績評価基準		
テスト(レポート)80%、出席状況や授業態度 20%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. 社会的養護における生活支援の実際①2. 社会的養護における生活支援の実際②3. 社会的養護における子どもの権利擁護4. 虐待を受けた子どもの理解とケア, 治療的養育の実際5. 社会的養護にかかわる専門職に必要な知識・技術①6. 社会的養護にかかわる専門職に必要な知識・技術②7. 社会的養護におけるソーシャルワーク8. 社会的養護にかかわる保育士等の倫理と責務		
使用テキスト・参考文献		
参考文献 伊藤嘉余子, 小池由佳編著, 2017, 『はじめて学ぶ子どもの福祉6 社会的養護内容』 ミネルヴァ書房		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年	演習
科目名	授業回数	授業時間
子育て支援	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
伊藤 礼美	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
保育の専門性をいかした子育て家庭や保護者に対する相談援助の実際や支援方法を学び保護者の「親育ち」も支援する知識・技術、価値観を理解する。		
到達目標		
子育て家庭に対して保育者が行う相談の支援の内容とその実際を具体的に理解し、保育現場で少しでも活用できることを目指す。		
受講の心構え		
子育て支援の取り組みについての情報を自分でも調べ興味関心を持ち学んで欲しいです。		
成績評価基準		
授業の取り組み30%、提出物20%、試験50%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. 子育て支援とは、子育て支援の意義2. 子育て支援の基本的価値と倫理3. 子育て支援の基本的技術・事例検討4. 保育・教育現場の子育て支援・事例検討5. 保育園での子育て支援の計画・実践6. お便りや文書を活用した子育て支援7. 地域の子育て支援の関係機関と社会資源の活用方法について8. 授業のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
「保育所保育指針解説書」フレーベル館「幼保連携認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもとリズム表現Ⅲ	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
道上 里奈	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい	保育の現場に携わる者として、子どもと一緒に表現する喜びや楽しさを知っていく必要があります。子どもと一緒に表現する前に、まずは保育者自身が表現者として子どもに伝えなくてはなりません。その経験をするための授業です。	
到達目標	楽器の扱い方、計画の立て方や指導法を含めて考える。また、さまざまなリズム表現やリズム遊びなどを知り、人前で表現者として発表し、自信をつける。	
受講の心構え	子どもになりきって表現することや、楽器や歌に触れ、一緒に楽しんでください。また、楽器の使い方、わらべうた、手遊びなどを知る機会として、この授業を有効活用できるよう、意欲的に学んでください。	
成績評価基準	授業態度や発表や参加意欲などで総合的に評価します。	
授業計画表	<ol style="list-style-type: none">1, オリエンテーション／手遊びの発表2, 体操、ダンスの紹介3, 楽器の使い方について4, グループ分け／話し合い5, 楽譜調達／合奏の練習6, 合奏練習7, 合奏練習8, 合奏練習9, 合奏練習10, 音楽発表会11, 振り返り12, わらべうたについて／実践13, リトミックについて／実践14, リトミック実践15, まとめ	
使用テキスト・参考文献	特にありません。プリントを配るので整理するためのファイルがあるといいと思います。	

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士・幼稚園教諭コース	2年	演習
科目名	授業回数	授業時間
幼児造形	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
矢元 政行		
科目のねらい		
乳幼児の指導・援助者として、保育実習に向けて取り扱う造形活動の教材についての必要な知識や技術について学ぶ。さらに造形の方法・用具の扱いなど実技を通して体験的に学習する。		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育実習の造形表現について理解できる。 ・実習に向けた造形活動について、発達段階を踏まえた素材や技法、指導や援助について理解できる。 ・えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域、行事等における造形活動について実習で使える教材研究を行い習得できる。 ・教材研究及び発表を行うことで思考力や表現力を高めることができる。 		
受講の心構え		
保育実習に向けて、より実践的な造形教材について学びます。授業で使う道具等を忘れないこと、配布資料は、ファイリングしてください。演習後は感想を提出してもらいます。		
成績評価基準		
製作課題60%、プリント提出20% 出席率授業態度20%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"> 1.保育・教育実習に向けた造形活動の指導案の作成について 2.実習に向けた造形活動「えがく領域」の教材研究と演習 3.実習に向けた造形活動「えがく領域」の教材研究と演習 4.実習に向けた造形活動「つくる領域」の教材研究と演習 5.実習に向けた造形活動「つくる領域」の教材研究と演習 6.実習に向けた造形活動「造形あそび」の教材研究と演習 7.実習に向けた造形活動「造形あそび」の教材研究と演習 8.まとめ 		
使用テキスト・参考文献		
豊岡短大『造形表現論』（配本テキスト） 『幼稚園教育要領解説』（最新版）（フレーベル館） 『保育所保育指針解説』（最新版）（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（最新版）（フレーベル館） 鶴留見裕子『おりがみよくばり百科』ひかりのくに その他、必要に応じて授業時に資料を配布		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態																
こども福祉科 合同	2年	演習																
科目名	授業回数	授業時間																
こどもと音楽表現Ⅳ	8回	15時間																
担当者氏名	担当者実務経験																	
折笠 美穂 田中 智子 道上 里奈																		
科目のねらい																		
様々な表現活動ができるように技術の向上を目指す。曲のレパートリーを増やす。歌の伴奏としてのピアノの技術を実践する。歌うこと、楽器演奏を体験し保育の中にどのように発展させる技術を学ぶ。																		
到達目標																		
弾き歌いやお互いに伴奏を弾きあったり実践力を身につける。グループで歌や楽器演奏をとおして発表できるように自分たちで作る上げる力をつける。																		
受講の心構え																		
レパートリーを増やし、きちんと仕上げるよう練習をしてください。グループ活動をとおして音楽の楽しさを感じ保育活動でこどもたちに伝えられるよう意欲的に取り組んでください。																		
成績評価基準																		
実技試験・授業態度（練習状況などを含めて総合評価） 実技試験80% 授業態度20%																		
授業計画表																		
<table><tbody><tr><td>1、ピアノの技術向上の為の演習</td><td>グループでの表現活動の演習</td></tr><tr><td>2、ピアノの技術向上の為の演習</td><td>グループでの表現活動の演習</td></tr><tr><td>3、ピアノの技術向上の為の演習</td><td>グループでの表現活動の演習</td></tr><tr><td>4、ピアノの技術向上の為の演習</td><td>グループでの表現活動の演習</td></tr><tr><td>5、ピアノの技術向上の為の演習</td><td>グループでの表現活動の演習</td></tr><tr><td>6、ピアノの技術向上の為の演習</td><td>グループでの表現活動の演習</td></tr><tr><td>7、ピアノの技術向上の為の演習</td><td>グループでの表現活動の演習</td></tr><tr><td>8、まとめ それぞれの成果を発表</td><td></td></tr></tbody></table>			1、ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習	2、ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習	3、ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習	4、ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習	5、ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習	6、ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習	7、ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習	8、まとめ それぞれの成果を発表	
1、ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習																	
2、ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習																	
3、ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習																	
4、ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習																	
5、ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習																	
6、ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習																	
7、ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習																	
8、まとめ それぞれの成果を発表																		
使用テキスト・参考文献																		
「小林 美実『こどものうた200』チャイルド本社 「小林 美実『続こどものうた200』チャイルド本社 その他、必要に応じて資料を配布。																		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士・幼稚園教諭コース	2年	実習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習Ⅱ	11日間	
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
<ol style="list-style-type: none">1. 実習園について理解を深め、安全および疾病予防への知識を身につける。2. 子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する。3. 生活や遊びの一部分を担当し、保育技術を習得する。4. 職員間の役割分担とチームワーク、保育士としての倫理を具体的に学ぶ。5. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。6. 保育士としての倫理を具体的に学ぶ。7. 安全および疾病予防への知識を身に付ける。		
到達目標		
<ol style="list-style-type: none">1. 保育所保育の実際に触れ、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。2. 家庭と地域の生活実態を把握し、子どもの家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育て支援をするために必要とされる能力を養う。		
受講の心構え		
卒業後の進路選択も見据えた積極的な実習態度を求めます。学ぶ姿勢を大切に実習に臨みましょう。		
成績評価基準		
実習評価、実習出席状況・提出物等を総合的に評価する		
授業計画表		
<p>○実習先 札幌市内および札幌近郊保育所</p> <p>○保育所における実習期間 令和4年7月25日(月)から 8月8日(月) 【期間内で11日間以上】</p>		
使用テキスト・参考文献		
実習要領他		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士・幼稚園教諭コース	2年	実習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習Ⅲ	11日間	
担当者氏名	担当者実務経験	
藤田留美	授業内容に関わる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい	1. 児童福祉施設などにおける養護・支援を実践し、施設保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。 2. 家庭と地域との生活実態にふれて、児童家庭福祉、社会的養護に対する理解を元に、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う 3. 施設保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己課題を明確化する	
到達目標	1. 児童福祉施設、障害者支援施設等と機能を学ぶ 2. 施設における支援を体験し、利用者に対する受容・共感的態度を学ぶ 3. 個々の利用者のニーズ把握を通して個別支援計画について学ぶ 4. 施設保育士の多様な業務と職業倫理を学ぶ 5. 多様な専門職との連携や地域社会との連携を学ぶ 6. 施設保育士としての自己課題を明確化する。	
受講の心構え	卒業後の進路選択も見据えた積極的な実習態度を求めます。学ぶ姿勢を大切に実習に臨みましょう。	
成績評価基準	実習評価、実習出席状況・提出物を総合的に評価する。	
授業計画表	○実習先 希望する児童福祉施設及び福祉施設 ○実習期間 令和4年7月25日(月)～令和4年8月8日(月) 【期間内で11日間】	
使用テキスト・参考文献	愛知県保育実習連絡協議会『保育士をめざす人の福祉施設実習』みらい出版 厚生労働省告示『保育所保育指針』フレーベル館/実習の手引き配布	

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士・幼稚園教諭コース	2年	演習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習指導Ⅱ	16回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1. 実習を円滑に進めていくため知識や技術の習得をするとともに実習内容・実習課題を明確にする。 2. 実習を通して培った保育士としての資質・能力・技術を踏まえて、自己の課題を明確化させる。 ※保育所指導Ⅱ（8時間）と保育実習対策Ⅱ（8時間）を併せて行うこととする。		
到達目標		
1. 保育所実習に必要な知識・技術を習得するとともに実習内容・実習課題を明確にする。 2. 実習後の振り返りを通して、今後の学習につなげ、自己課題を明確にする。		
受講の心構え		
授業での学びと実体験を繋げ、実習で得た様々な体験を振り返り、自己課題を明確にしましょう。		
成績評価基準		
授業態度・課題への取り組みと提出状況・発表を総合的に評価		
授業計画表		
1. 実習の意義・目的・概要の説明・個人票の作成 2. 実習の抱負・実習課題の作成① 3. 実習課題の作成② 4. 実習先事前訪問 5. 年齢別遊びの展開～指導案作成① 6. 年齢別遊びの展開～指導案作成② 7. 年齢別遊びの展開～指導案作成③ 8. 年齢別遊びの展開～模擬保育④ 9. 実習日誌の取り扱い・記録の書き方 10. 事前集中指導① 11. 事前集中指導② 12. 事後集中指導① 13. 事後集中指導② 14・15 実習報告会 16. 1年生とのディスカッション		
使用テキスト・参考文献		
実習の手引き、配布資料「保育所保育指針」フレーベル館		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士・幼稚園教諭コース	2年	演習
科目名	授業形態	授業回数
保育実習対策Ⅲ・保育実習指導Ⅲ	16回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
藤田 留美	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1. 保育実習Ⅲ(施設)に必要な知識・技術を習得するとともに、自ら学習内容・課題を明確にする。 2. 実習終了後、実習の総括と自己評価を行い、自己の学びを確認するとともに今後の課題を明確にする。 ※保育所指導Ⅲ(施設)8時間と保育実習対策Ⅱ(施設)8時間を併せて行うこととする。		
到達目標		
1<<事前指導>> 実習施設の制度的位置づけ、利用者と援助方法の概要、職員と業務内容について学ぶ 実習記録や実習計画を学ぶとともに、人権尊重・守秘義務などの留意事項を学ぶ <<事後指導>> 実習の成果を個別に報告し、自己課題を明確にする		
受講の心構え		
授業での学びと実体験を繋げ、実習で得た様々な体験を振り返り、自己課題を明確にしましょう。		
成績評価基準		
授業態度・課題への取り組みと提出状況・発表を総合的に評価		
授業計画表		
1.実習の意義・目的・概要の説明・個人票作成 2.実習の抱負・実習課題の作成① 3.実習課題の作成② 4.実習先事前訪問 5.実習課題の作成③ 6.実習課題の作成④ 7.個別指導計画の考え方① 8.個別指導計画の書き方② 9.実習日誌の取り扱い・記録の書き方 10.事前集中指導① 11.事前集中指導② 12.事後集中指導① 13.事後集中指導② 14.実習報告会 15.実習報告会 16.1生とのディスカッション		
使用テキスト・参考文献		
愛知県保育実習連絡協議会『保育士をめざす人の福祉施設実習』みらい出版		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士・幼稚園教諭コース	2年	演習
科目名	授業回数	授業時間
教育実習対策Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
井口 美和 藤田 留美	【井口】幼稚園教諭として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。 【藤田】保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1 教育実習へ向けての目標・課題を明確にし、幼稚園教諭・認定こども園保育教諭を目指す意欲を高め、実習への充実へつなげる。 2 幼稚園教諭・保育教諭として必要な資質を高め、具体的に保育を計画・実践し、振り返る力を身につける。 3 実習の目標、課題を明確にし、実習に必要な「物・心」の準備を行う。		
到達目標		
1.幼稚園訪問を通し、実習園の理解を深めると共に、必要な準備を進める。 2.20日間の実習をイメージし、実習目標・計画を立て、健康管理に努める。 3.教育実習対策Ⅰ及び既習教科の知識・技能を基礎として実践し、意見交換を基に指導方法や環境構成等について検討し、形にする力を身につける		
受講の心構え		
事前準備を行うことで、自信をもって実習に臨みましょう。その中で「保育とは？保育者とは？」を考えましょう		
成績評価基準		
授業態度60%・提出物(指導案・記録物)40%		
授業計画表		
1 実習概要の説明・実習目標立案・実践演習 2 実習目標完成・事前訪問準備 3 実習先事前訪問 4 事前訪問後まとめ(事前学習・準備物・指導案など) 5 指導計画・実習日誌について 6 指導計画立案・使用教材準備(教材研究) 7 指導計画立案・実践 8 指導計画立案・実践・評価		
使用テキスト・参考文献		
田治米登美子他『幼稚園教育実習事前・事後指導』豊岡短期大学 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 内閣府他『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもと体育	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
高橋 和也	幼稚園教諭として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
子どもの発達過程と運動遊びの基礎を理解し、乳幼児期の運動遊びが発達にどのような影響を与えるのか理解する。また、運動遊びの具体的な内容や指導方法について理解、取得し、保育者としての実践力を身に付ける。		
到達目標		
体づくり運動、走・跳の運動遊び、器械・器具を使った運動遊び等、子どもが主体的に遊べる具体的な展開の仕方を実践できるようになる。		
受講の心構え		
運動のしやすい服装。積極的な姿勢で授業に臨み、グループでの活動も多いので、協力して行ってください。		
成績評価基準		
授業への取り組み 50%、提出物、グループ発表等 50%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. 子どもの発達過程と運動遊びについて2. 体づくり運動3. 体づくり運動4. 用具を使った運動遊び5. 用具を使った運動遊び6. サーキット遊び7. グループでの活動・実践8. グループでの発表・授業のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
特になし		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年	演習
科目名	授業回数	授業時間
卒業研究	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
房田 里枝	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
2年間学んだことを生かし、総合的な創造力・表現力を身につけるとともに、表現することを通して、保育者としての指導力を養う。		
到達目標		
授業、実習を通して学んだ技術を総合的な創造力・表現力として発揮するとともに、保育者としての指導力を養う。さらに、チームとして協力し合い、作品を作り上げる達成感を味わう。		
受講の心構え		
子どもたちが興味・関心をもって鑑賞する姿をイメージしながら、それぞれが責任と自覚を持ち、クラス全員で良い作品を作りあげる。		
成績評価基準		
取り組み段階から最終日までの状況を総合的に評価する。		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">オリエンテーション リーダー、副リーダーを決めて卒業制作に向けて主として動く担当者を決める。 題材を選ぶ。題材や主な内容を決めて、大道具・小道具・背景・衣装に担当分けをする。 題材が決まり次第、キャスト・器楽・黒子・音響・照明の担当分けをする。グループごとに製作グループごとに製作グループごとに製作グループごとに製作・完成製作物の補正・修正台本に合わせた必要な音楽を話し合う。台本に合わせた必要な音楽を選曲し必要な楽器を選ぶ。曲に合わせて楽器合奏を考え、歌詞を考える。1. 選曲させた曲のパートを決め練習する1. 2. 演技に合わせて実際に演奏し、必要な部分の手直しをする。1. 3. 演技に合わせて実際に演奏し、必要な部分の手直しをする。1. 4. 演技に合わせて実際に演奏し、必要な部分の手直しをする。1. 5. 演技に合わせて実際に演奏し、必要な部分の手直し、楽曲を完成させる。		
使用テキスト・参考文献		
絵本、様々な楽譜など		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年	演習
科目名	授業回数	授業時間
保育制作Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
道上 里奈	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
子どもと一緒に楽しむことができるような季節行事を計画する。また、仲間と協力しながら作り上げていくことの大切さや一人では成し得ないことを知り、全員で発表することをねらいとする。		
到達目標		
季節行事のおたのしみ会を行う。仲間と一緒に子どもが楽しむことのできるような企画を立案し、製作したものを実施する。		
受講の心構え		
グループワークが基本になります。保育は1人では行うことができません。行事計画も同じであることを知り、意欲的に参加してください。		
成績評価基準		
授業態度、参加意欲や製作物の進行状況、計画性や発表したものを含め、総合的に評価します。		
授業計画表		
1, オリエンテーション 2, グループでの話し合い／制作① 3, 制作② 4, 制作③ 5, 制作④ 6, 制作⑤／行事計画書作成 7, おたのしみ会発表 8, おたのしみ会発表／まとめ		
使用テキスト・参考文献		
特にテキストはありませんが、保育雑誌や動画などを参考にするといいと思います。また、実習などで実際に行事に参加できた場合は、その時の様子などメモしておくと思えます。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年	講義
科目名	授業回数	授業時間
障害者支援論	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
齊藤 英紀		
科目のねらい		
北海道における障害者支援の歴史及び実例に基づき、現行の障害者支援施策を理解する。特に症例に基づいて障害者支援計画等の実務的な考え方を学ぶ。		
到達目標		
現行の障害者支援施策の種類と特徴を理解し、障害のある人の支援に必要なサービスを検討することができるようになる。		
受講の心構え		
・配布資料はファイリングすること。・障害者を支援するための着目点、方法、テクニック等の実践的な内容を講義に盛り込みますので、積極的な受講を期待しております。		
成績評価基準		
授業態度及び出席（40%）、筆記試験（60%）		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. オリエンテーション、障害者支援施策の歴史、北海道の知的障害者支援の歴史2. 現行の障害者支援施策の概要3. 障害者支援の現状について4. 症例及び事例の概要説明5. アセスメント、フェイスシートの作成技術6. 支援計画の立案のための面談の仕方7. 支援計画の立案とその検証8. まとめ・障害者支援における多様性について		
使用テキスト・参考文献		
・テキストは不要です。・資料プリントを用意します。資料は全てファイルに綴ってください。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年	演習
科目名	授業回数	授業時間
卒業研究Ⅱ	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
房田 里枝	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
2年間学んだことを生かし、総合的な創造力・表現力を身につけるとともに、表現することを通して、保育者としての指導力を養う。		
到達目標		
授業、実習を通して学んだ技術を総合的な創造力・表現力として発揮するとともに、保育者としての指導力を養う。さらに、チームとして協力し合い、作品を作り上げる達成感を味わう。		
受講の心構え		
子どもたちが興味・関心をもって鑑賞する姿をイメージしながら、それぞれが責任と自覚を持ち、クラス全員で良い作品を作りあげる。		
成績評価基準		
取り組み段階から最終日までの状況を総合的に評価する。		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. 各パート練習12. 各パート練習23. 各パート練習34. 各パート練習45. 各パート練習56. 合同練習17. 合同練習28. 合同練習39. 合同練習410. 合同練習511. 合同練習612. 総合練習113. 総合練習214. 総合練習3 (会場設営)15. 総合練習4 (会場設営)		
使用テキスト・参考文献		
特になし		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年	演習
科目名	授業回数	授業時間
卒業研究Ⅲ	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
房田 里枝	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
2年間学んだことを生かし、総合的な創造力・表現力として発揮するとともに、保育者としての指導力を養う。さらに、チームとして協力し合い、作品を作り上げる達成感を味わう。		
到達目標		
1. オペレッタの内容に合わせ、背景、大道具、小道具、衣装の製作を行う。 2. 台本にあわせ、オペレッタの表現にふさわしい音楽を創作して歌詞を考え、場面にあった楽器、効果音、BGMを考え演奏する		
受講の心構え		
子どもたちが興味・関心をもって鑑賞する姿をイメージしながら、それぞれが責任と自覚を持ち、クラス全員で良い作品を作りあげる。		
成績評価基準		
取り組み段階から最終日までの状況を総合的に評価する。		
授業計画表		
1. 各パート練習1 2. 各パート練習2 3. 各パート練習3 4. 各パート練習4 5. 各パート練習5 6. 合同練習1 7. 合同練習2 8. 合同練習3 9. 合同練習4 10. 合同練習5 11. 合同練習6 12. 総合練習1 13. 総合練習2 14. 総合練習3 15. 評価と反省		
使用テキスト・参考文献		
特になし		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士・幼稚園教諭コース	2年	演習
科目名	授業回数	授業時間
教育実習対策Ⅲ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
井口 美和	幼稚園教諭として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1 実習に向けての目標・課題を明確にし、幼稚園教諭・認定こども園保育教諭を目指す意欲を高める。 2 幼稚園教諭・保育教諭として必要な資質を高め、保育を計画・構築し、実践する力を身につける。 3 実習での学びを振り返り、課題意識・行動計画を考える。		
到達目標		
1 既習知識・技能を基礎として実習計画を立案し、準備を進める。 2 実習の学びと成果を整理し、自己課題を明確にする。		
受講の心構え		
自信をもって教育実習に臨みましょう。保育を楽しみ、現場での実践からの学びを基に、自身の保育観を見出し、将来の希望に向かってください。		
成績評価基準		
・記録物提出 20% ・発表の内容・資料 50% ・実習評価 30%		
授業計画表		
1 集中事前指導 「目標の確認・心構え」 2 集中事前指導 「持参資料・準備物等作成」 3 集中事後指導 「実習のまとめ」 4 集中事後指導 「実習体験発表準備」 5 集中事後指導 「実習体験発表準備」 6 集中事後指導 「実習体験発表会」 7 集中事後指導 「実習体験発表会」 8 集中事後指導 「実習体験発表会」 ・まとめ ・講評		
使用テキスト・参考文献		
田治米富子 『幼稚園教育実習事前・事後指導』豊岡短期大学指定 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年	演習
科目名	授業回数	授業時間
点訳	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
吉田 重子		
科目のねらい		
点字の書き方の基本を習得するとともに、視覚障害者を取り巻く社会環境、生活上の不便さ等の一端を学ぶことを通して、よりよい支援を考えるきっかけとする。		
到達目標		
・連絡事項や私信など、日常生活上の情報を伝えられる程度の点字を書くことができる。 ・視覚障害の種類、日常生活用具、余暇の利用の可能性など、視覚障害者を取り巻く社会環境の一端を知ることができる。		
受講の心構え		
毎時配布するプリントをしっかりと読んで、点訳演習に取り組むこと。		
成績評価基準		
レポート課題6割、授業への取り組み（発言や毎時行う演習提出物等）4割		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">点訳：点字の仕組み、点字器の使い方、50音の習得（清音・濁音） トピックス：点字の歴史点訳：拗音・拗濁音・数字の習得 トピックス：視覚障害の定義、疾患や見え方等点訳：点字表記法の特徴（助詞の表記等）の習得 トピックス：視覚障害者用日常生活用具・学習用具の紹介点訳：文の書き方。分かち書きの基本の習得 トピックス：街中で見かける点字について点訳：文の書き方、分かち書きの基本の習得 トピックス：視覚障害者と余暇の利用（スポーツ）点訳：文章の書き方、分かち書きの習得、指先で点字を読む体験 トピックス：視覚障害者と余暇（映画鑑賞、読書等）点訳：文章の書き方、書式の基本の習得、アルファベットの習得 トピックス：視覚障害児と玩具（健常児とともに遊べる「共遊玩具」の紹介）点訳：文章の書き方、書式の基本の習得、アルファベットの習得 トピックス：視覚障害児・健常児、子供同士の関わりを促す支援の在り方		
使用テキスト・参考文献		
全国資格障害者情報提供施設協会『初めての点訳 第3版』 吉田重子『点字からはじまるメッセージ』北海道新聞出版局		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年	講義
科目名	授業回数	授業時間
応対論Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
坪崎 美佐緒		
科目のねらい		
二年生となりより実践的な内容に取り組みます。社会人としての基本の「報連相」「ビジネスメール」や「ビジネス文章」また、冠婚葬祭とは何かを理解する。 その結果、人や組織から愛され求められる人となる。		
到達目標		
「あいさつ」「敬語」「報連相」自分の表情に責任を持つといった、社会人として最低限必要なことを日々の学校生活の中で実践できるようになる		
受講の心構え		
応対論は社会に出る前の練習の場」であるので授業で学んだことを実践し身につけましょう。 挨拶や敬語などマナーは他の教科、日常生活でも実施することで身につきます。 欠席した場合は、次の授業で支障のないように事前に準備すること。		
成績評価基準		
筆記試験 30%・実技試験 30%・平常点(授業での取り組み 40%)の総合評価		
授業計画表		
1. 職場での基本ルール（会話のマナー・傾聴・伝え方） 2. 就職面接のマナー（身だしなみ・表情・話し方） 3. 就職面接のマナー（好感度の高い面接の実践） 4. 報連相の重要性と伝え方・適正なタイミング 5. ビジネス文章（メール・文書作成） 6. 慶弔のマナー（冠婚葬祭） 7. 通過儀礼（冠婚葬祭） 8. まとめ		
使用テキスト・参考文献		
マナー&プロトコルの基礎知識 NPO 法人日本マナープロトコル協会 これだけは身につけておきたい 保育者の常識67 谷田貝公昭・上野通子 一藝社		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士・幼稚園教諭コース	2年	講義
科目名	授業回数	授業時間
国語総合演習Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
浦田 日出雄		
科目のねらい	自分が書く文字について振り返り、正確で読みやすい工夫をする。また、いろいろな様式の文章に触れ、目的に合った文章を理解したり、書いたりする。	
到達目標	字形を整え、丁寧に文字を書くことが出来る。語彙を増やし、使用することができる。いろいろな様式の文章を書くことができる。	
受講の心構え	伝えたいことを話したり、書いたり、相手の話を聞いたりしながら、豊かな表現を目指し取り組んでほしい。	
成績評価基準	まとめの試験 60% 小テスト 20% 授業姿勢 20%	
授業計画表	<ol style="list-style-type: none">1. 個人票を作成する。2. 封筒の宛名、差出人の住所、名前をバランス良く書く。礼状の書き方。3. 礼状の書き方を知る。4. 履歴書について理解する。同音異義語を練習する。5. 履歴書を書く。同訓異義語を練習する。6. 慣用句、専門用語の正しい理解と使い方を知る。7. 四字熟語が読めて、意味を知る。ことわざについて知る。8. ことわざについて知る。まとめの試験をする。	
使用テキスト・参考文献	必要に応じてプリントを配付する。	

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年	演習
科目名	授業回数	授業時間
就職ガイダンスII	5回	10時間
担当者氏名	担当者実務経験	
長屋 敦志	介護福祉士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
・実習など学校スケジュールがある中で、いつ、何をするのか具体的な行動を理解し、各自が主体的に考え、行動できることを目指す。		
到達目標		
1. 進路について、主体的に考え、取り組める。 2. 就職活動に必要な知識や技術を認識し、獲得する。 3. 就職試験の傾向と対策を学び、自らの就職活動に反映させ行動する。		
受講の心構え		
希望する進路は、自分で「掴み取る」ものです。 「実現してもらおう」ものではない。希望する進路を掴み取るために、一緒に考え行動しましょう。		
成績評価基準		
受講をもって履修とする		
授業計画表		
1 前年度求人・内定の流れ、就職活動のきまりと受験等各種手続きについて 2 求人票を見るポイント 3 長期休みとそれ以降の具体的な就職活動について 4 分野別ガイダンス 就職試験に向けた対策 5 内定者・未定者指導		
使用テキスト・参考文献		
特になし		